

昼も夜も

バルク供給システムをトータルサポート

安心と実績の



株式  
会社

宮入バルブ製作所

バルク貯槽用安全弁  
交換要領書  
LPR-680 シリーズ

交換要領書適合表

適合	安全弁型式	要領書 No.
○	LPR-680	HM-3040
	LPR-680P	
	LPR-680S	
	LPR-680M	
	LPR-680MP	
	LPR-680J	HM-3047
	LPR-680JP	
	LPR-670S	HM-3046

# バルク貯槽用安全弁交換作業要領書

LPR-680 シリーズ(O-リング取付けタイプ)

はじめに

LPR-680 シリーズ(O-リング取付けタイプ)はバルク貯槽用安全弁用連結弁(CNV シリーズ)または、マルチバルブ(CMB・COM)に取付けて使用する事により貯槽内のガスを抜かずに安全弁の交換が可能です。

本書は LPR-680 シリーズ(O-リング取付けタイプ)安全弁の交換方法を説明いたします。安全に交換作業を行う為に交換前に必ず本書をお読みくださいますようお願い申し上げます。

お願い

- \* LP ガス設備の安全確保に万全を期すため、作業をはじめる前に本書を必ずお読みください。
- \* 本書はお読みになった後も大切に保管してください。
- \* 本書は改良のため予告なく内容を変更する場合があります。予めご了承ください。
- \* 間違った方法で交換をされますと、故障や事故の原因となることがあります。十分にご注意ください。
- \* 安全に交換作業を行なって頂く為に、厳格に守っていただきたい事項が記載されている箇所には、下記のようなシンボルマークをつけてありますので、特に注意してお読みください。



警告

この表示を無視して誤った取扱をすると、作業者が死亡又は重傷を負う可能性が想定される場合を表しています。



注意

この表示を無視して誤った取扱をすると、作業者が傷害を負う可能性が想定される場合、および物的損害のみの発生が想定される場合を表しています。








禁止

この表示は危険回避のため、特定の行為の禁止を表しています。

## 安全のために

- ☆ バルク貯槽用安全弁(LPR-680 シリーズ)を安全に交換して頂く為に下記の事項を遵守してください。

 警告	安全弁交換作業は、法規などに定める有資格者が行ってください。
 禁止	交換時には少量の LP ガスが放出されます。 貯槽周辺では火気を使用しないでください。
 警告	交換作業中に万一連結弁と安全弁接続部からカニ泡状よりも多い漏れを確認した場合は交換作業を中止し、本交換作業要領書 P.26 「8.交換治具の使用法」の指示に従ってください。 適切な処理を行わないと重大な事故につながる可能性があります。
 注意	交換作業中は必ず保護めがね、革手袋を着用して行ってください。
 注意	バルク貯槽用安全弁は液化石油ガス法等により、 <b>前回検査日又は、製造日より5年以内に再検査、又は交換を実施することが義務付けられています。</b> 安全弁の再検査、又は、交換を安全弁本体に刻印された製造年月から5年を経過する前に実施してください。
 注意	交換する安全弁の取扱には注意をしてください。 衝撃等が加わると製品の性能に異常をきたす可能性があります。
 注意	連結弁に取付ける前に安全弁ネジ部に傷、変形等異常が無い事を確認してください。又、O-リングに傷等が無いことも同時に確認してください。 取付け不能、取付け不良によりガス漏れの原因となります。
 注意	作業開始前に既設安全弁と交換安全弁の仕様(ネジサイズ、口径、作動圧力等)が同一であることを必ず確認してください。

 注意	<p>樹脂製の保護キャップを使用している場合は、既設の保護キャップの再使用はしないでください。</p> <p>劣化により内部に水やごみが入り製品の性能に異常をきたす原因となる可能性があります。</p> <p>必ず新品の保護キャップに交換してください。</p>
 禁止	<p>本交換要領書指定以外のシール剤は使用しないでください。</p>
 注意	<p>安全弁の交換作業は安全弁や連結弁の種類等により交換方法が異なります。</p> <p>該当する方法で作業をしてください。</p>
 禁止	<p>交換用安全弁は連結弁に取付ける直前までビニール袋から取り出さないでください。</p> <p>O-リング部やネジ部への異物付着等により気密性能が低下し漏れが発生する恐れがあります。</p>
 禁止	<p>交換作業を行う際は、軍手を使用しないでください。</p> <p>毛羽立ちがO-リング等に付着すると漏れの原因となる可能性があります。</p>

# 目次

安全のために.....	2
1. 作業前に.....	5
2. 連結弁の確認.....	8
3. 安全弁の取外し.....	9
4. 連結弁の点検・整備.....	18
5. ソケット・放出管の点検・整備.....	19
6. 安全弁の取付け.....	21
7. 完了検査.....	25
8. 交換治具の使用法.....	26
9. 資料.....	30
資料1 六角部寸法表	
資料2 安全弁ねじ込みトルク	
資料3 交換治具一覧表	
資料4 交換用安全弁コード適合表	
10. 保証.....	33

## 1. 作業前に

- ☆ 本交換要領書には貯槽のプロテクターの取外し、取付け方法は記載されていません。必要な場合は各貯槽メーカーにお問い合わせください。
- ☆ 作業開始前に既設の安全弁と交換用安全弁が適合しているかを以下の内容を確認してから作業を開始してください。確認内容は現品又は、図面にて行ってください。

## 1-1 安全弁の種類(外観上)を確認。

- A) 安全弁にソケット及び放出管がついていない。本書では「**放出管無し**」と表記
  - B) 安全弁にソケットが付き、その上に放出管が付いている。本書では「**ソケット付き**」と表記
  - C) 安全弁に直接放出管が付いている。本書では「**放出管付き**」と表記
- 但し、交換用安全弁にはソケット及び放出管が含まれないため、出荷時の状態は全て**放出管無し**となります。

1-2 ネジサイズが既設の安全弁と同一であること。

1-3 口径が既設の安全弁と同一であること。

1-4 設定圧力が既設の安全弁と同一であること。

1-5 製品コードが既設の安全弁に適合していること。

(製品コードの適合は、「資料 4 交換用安全弁コード適合表」で確認してください。)

1-6 交換用安全弁に Oリングが取付けてあること。

A) 放出管なし



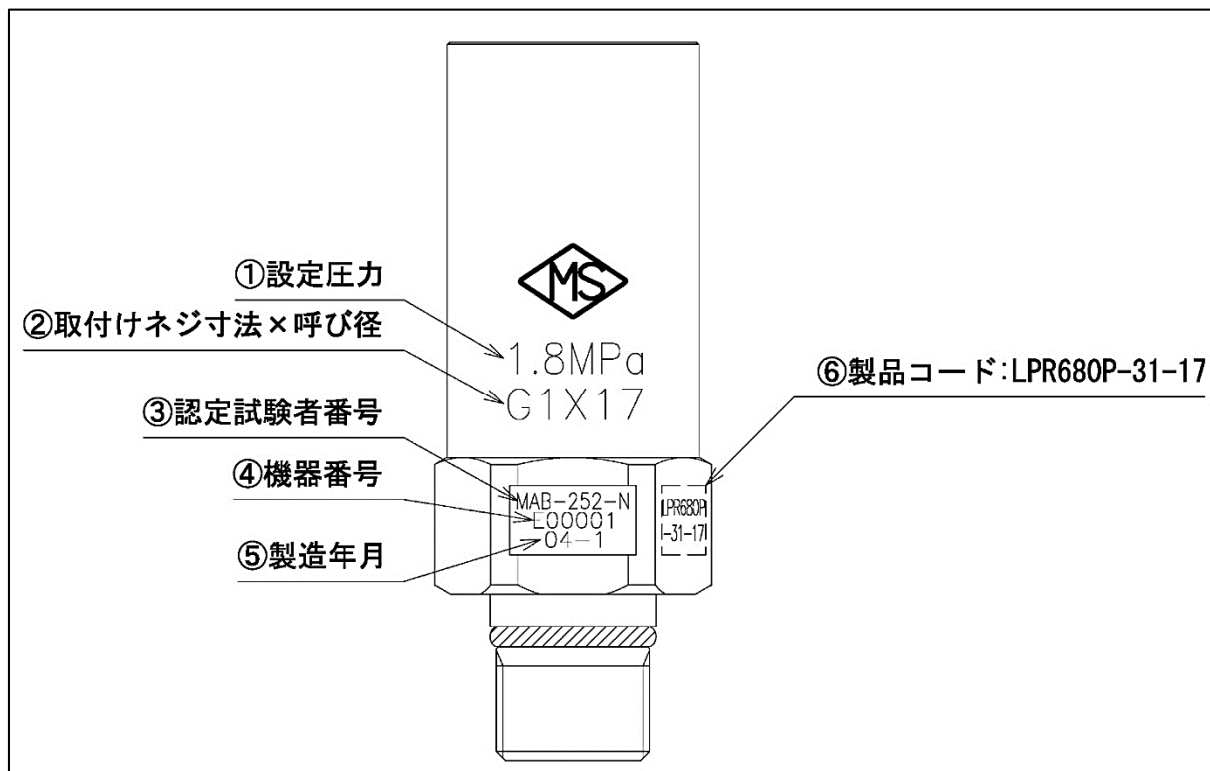
B) ソケット付き



C) 放出管付き



## 製品情報刻印表示 例) LPR-680 口径 Φ17 の場合



☆ 製品のサイズによっては安全弁の六角部に全て刻印されている場合があります。ご了承ください。



注意

各部分の確認はビニール袋から出さずに行ってください。O-リングに傷やごみが付着すると漏れの原因となります。



注意

- 交換作業前に既設の安全弁と交換用安全弁の仕様が同一であることを確認してください。(同一であるかの確認は、「資料 4-1、4-2 交換用安全弁コード適合表」にて確認してください。)
- 安全弁のサイズによっては口径違いでもネジサイズが同一、口径が同一でもネジサイズが違う場合があります。必ず同じ口径及びネジサイズの安全弁を取付けてください。

## 1-7 準備するもの

- ・ 交換用安全弁（「資料 4-1、資料 4-2」参照）
- ・ 放出管（既設の安全弁に取付けてある場合で破損などにより交換を要する場合のみ）
- ・ ソケット（既設の安全弁に取付けてある場合で破損などにより交換を要する場合のみ）
- ・ 保護キャップ（樹脂製の場合のみ。安全弁本体用・放出管用いずれか 1 つ）
- ・ スパナ×2（サイズは「資料 1」参照）
  - \* 但し平 70 は CNV-40 用交換治具として別売りも致します。
- ・ 交換治具セット（「資料 3」参照 別売り）
- ・ パイプレンチ
- ・ ワイヤブラシ
- ・ ウェス（毛羽立ちが無いもの）
- ・ 手袋（皮製）
- ・ 保護めがね
- ・ シリコンオイル（東芝シリコン TSF451-1000 相当品）
  - ※弊社にて販売も行っております。弊社営業までお問い合わせください。
- ・ シールテープ
- ・ 脱脂剤（洗浄液）
- ・ 検知液
- ・ タッチアップ用ペイント（貯槽及び、放出管用）

☆ 上記の準備するものの中にはプロテクター脱着等に使用する工具等は含まれておりません。ご了承ください。



禁止

- シリコンオイルは指定品又は、指定品相当以外のものは使用しないでください。
- ウェスは毛羽立つものは使用しないでください。毛羽立ちがO-リング等に付着すると漏れの原因となる可能性があります。
- 軍手は使用しないでください。毛羽立ちがO-リング等に付着すると漏れの原因となる可能性があります。



警告

交換治具セットは連結弁に異常がある場合に必要です。  
必ず交換作業前に準備をしてください。



注意

- 検知液は液面計ゲージ部にかからない様に注意してください。
- 交換用安全弁には放出管は含まれません。  
必要に応じて別途手配が必要です。
- 交換用安全弁にはソケットは含まれません。  
必要に応じて別途手配が必要です。
- 交換用安全弁には保護キャップは含まれていません。  
保護キャップは別途手配が必要です。
- 樹脂製の保護キャップは安全弁交換時に必ず新しいものと交換してください。劣化により内部に水やごみ等が入ると故障の原因となります。
- 樹脂製の保護キャップには安全弁本体用、放出管用があります。  
安全弁の仕様に合ったものを準備してください。



2. 連結弁の確認

- ☆ 連結弁の種類は作業方法の違いにより大きく分けて **Aタイプ:スパナ固定要、**  
**Bタイプ:スパナ固定不要**の2種類です。A, B どちらのタイプか確認してから作業してください。
- (A) ねじ込み式連結弁 …… CNV シリーズ、COM-50F (スパナ固定要)
- (B) 一体型連結弁 …… CMB シリーズ、その他の COM (スパナ固定不要)



警告

Aタイプの連結弁は貯槽又はマルチバルブにねじ込みで接続されています。作業中に接続部が回らないように必ず連結弁をスパナで固定した状態で行ってください。



注意

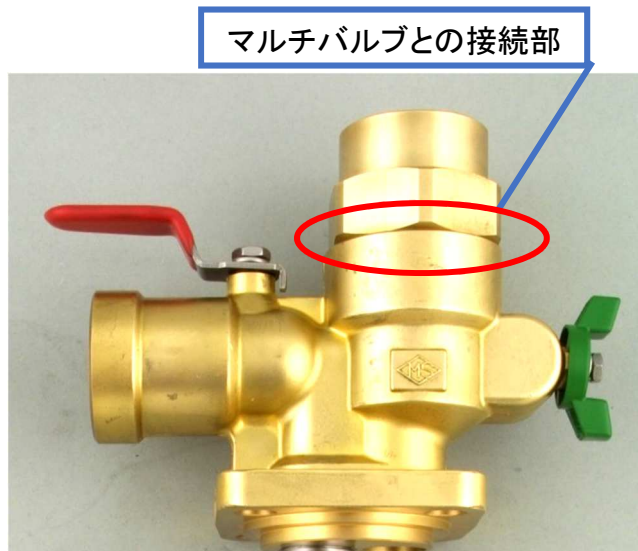
連結弁の種類によって作業方法が違います。必ず連結弁の種類を確認して、正しい方法で交換作業を行ってください。

(Aタイプ) CNV シリーズ



ねじ込み式連結弁 スパナ固定要

(Aタイプ) COM-50F



連結弁ねじ込み式 スパナ固定要

(Bタイプ) CMB シリーズ



一体式 スパナ固定不要

(Bタイプ) その他 COM、CNV-\*\*\*F



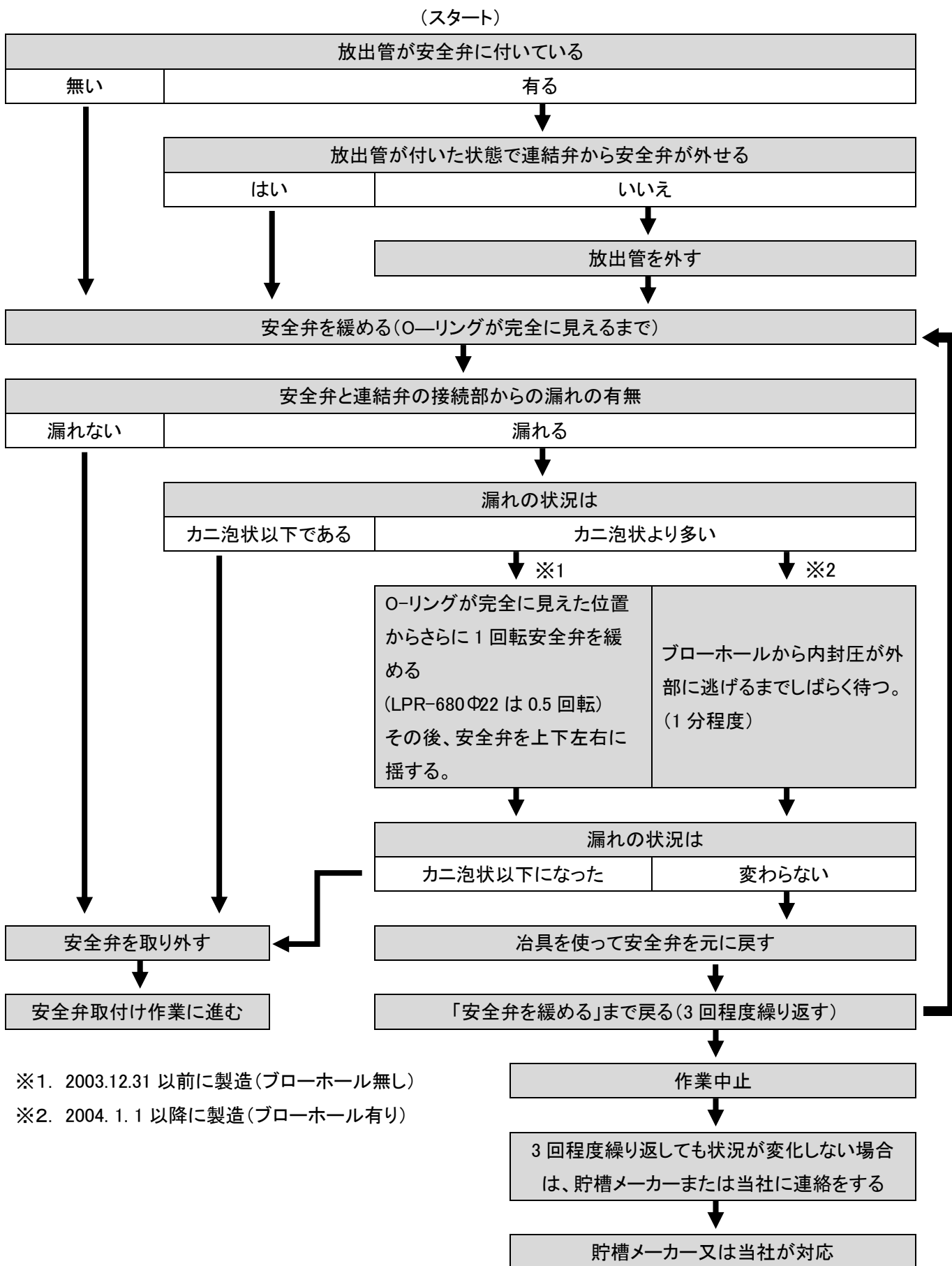
一体式 スパナ固定不要



フランジ式 スパナ固定不要

### 3. 安全弁の取外し

#### 3-1 安全弁の取外しフロー



## 3-2 安全弁の取外し

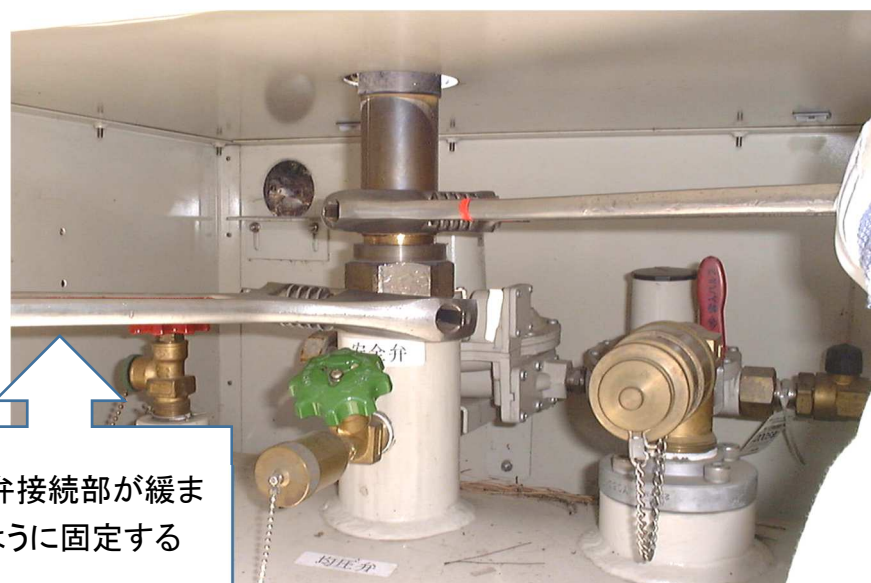
- ☆ ここでは連結弁が P.8 の「2. 連結弁の確認」で(A)タイプの CNV シリーズを例として説明いたします。連結弁へのスパナ掛け以外は(B)タイプも作業は変わりありません。
  - ☆ 貯槽によってはソケット・放出管が付いた状態では安全弁の交換が出来ない場合があります。  
先に P.17 の「3-3 ソケット・放出管の取外し」に進み、その後に実施します。
  - ☆ P.8 の「2. 連結弁の確認」で(A)タイプの場合は、連結弁と貯槽の接続部が緩まないように連結弁の六角部をスパナで固定して作業してください。
- 作業 3-2-① P.8 の「2. 連結弁の確認」で(A)タイプの場合は、連結弁六角部をスパナで固定します。

スパナ掛けの写真



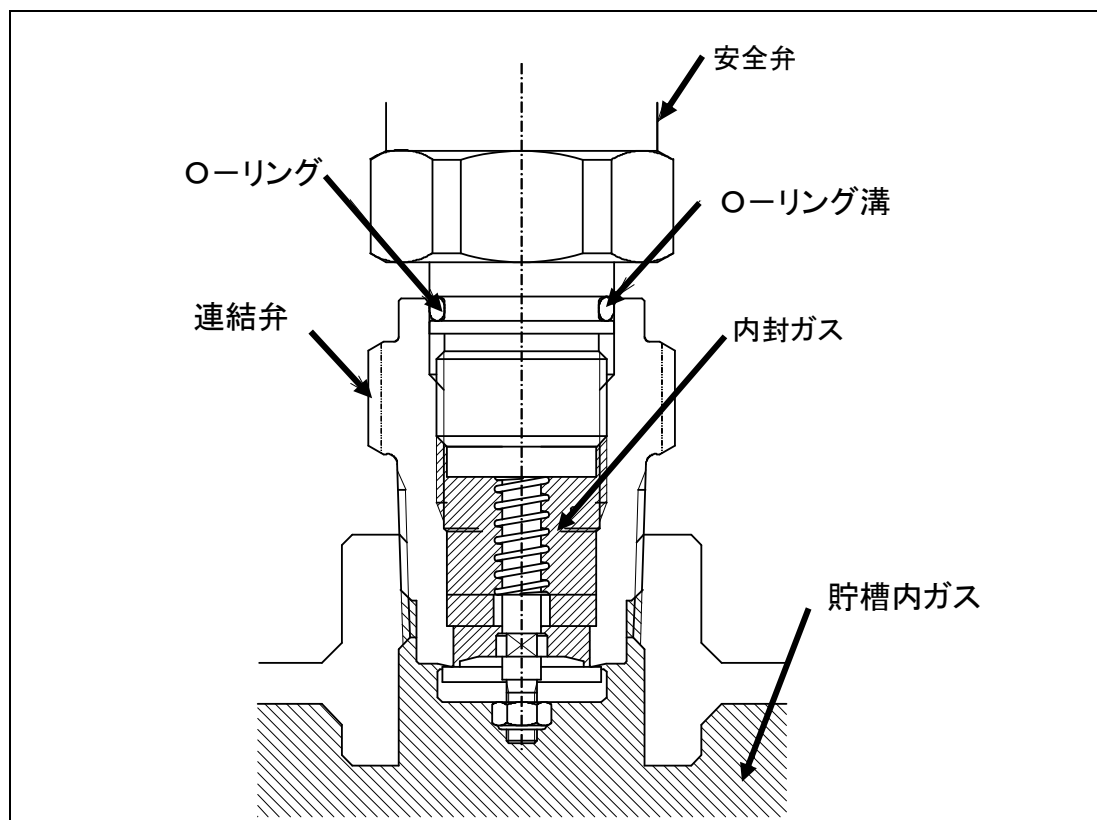
- 作業 3-2-② 安全弁の六角部にスパナを掛け反時計回り(左回り)に回し、  
Oリングの上部が見える位置まで安全弁を緩めます。

スパナで緩める



連結弁接続部が緩まないように固定する

- ☆ Oリング上部が見えたところで連結弁の逆止弁が閉状態となり貯槽と連結が分断されます。貯槽と分断された事により、連結弁と安全弁の間に微量のLPGが内封されます。



- 作業 3-2-③ さらに安全弁をゆっくりと反時計回り(左回り)に回し Oリングが連結弁から完全に見える位置まで安全弁を緩め一旦止めます。この時内封ガスが Oリングを押し上げ “パン”という破裂音がしますので注意してください。

完全にOリングが見えた状態

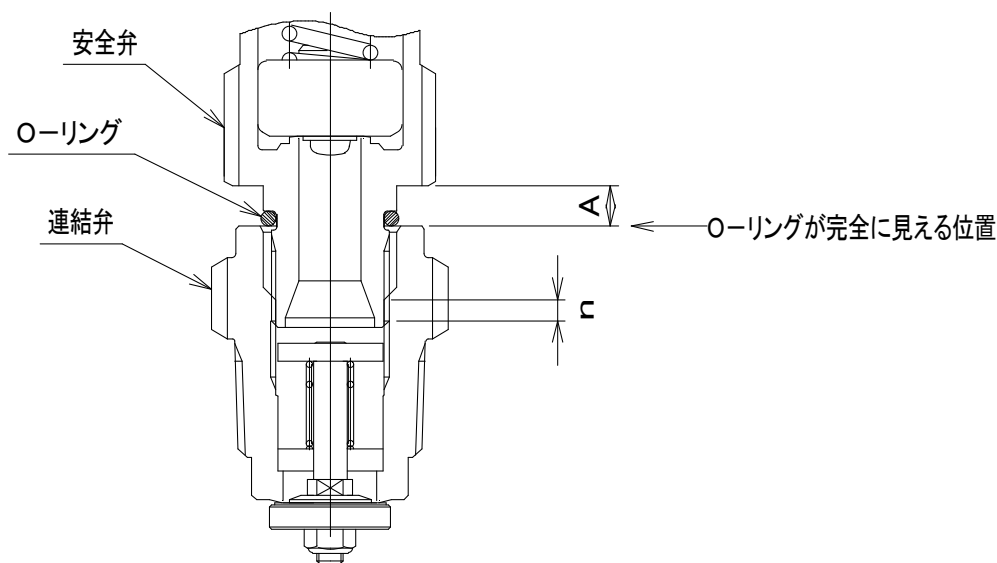


- 作業 3-2-④ 上記の状態のまま安全弁と連結弁の接続部に検知液をかけて LPG の漏洩が無い事、または、カニ泡状態以下の漏洩である事を確認してください。  
LPG の流出がカニ泡状態より激しい場合は以下の手順で作業を実施してください。

作業 3-2-④-イ

ブローホール対応前(2003年12月31日以前製造)の安全弁を交換する際、安全弁と連結弁の接続部からの LPG の漏れが多い場合は以下の手順で作業を実施してください。

- ① LPG の漏れがカニ泡状態より激しい場合は、O-リングが完全に見える位置まで安全弁を緩めます。  
O-リングが完全に見える位置とは、下の図のように連結弁の上端から O-リングが出た位置とします。  
この時の安全弁と連結弁の隙間 A 及び安全弁と連結弁のねじのかみ合い山数 n は P.13 の通りです。
- ② 隙間 A の位置まで安全弁を緩めたら、安全弁と連結弁の間に内封されたガスをできるだけ放出するように安全弁を上下左右に揺らしてください。ただし、安全弁を回転させないでください。
- ③ 漏れが減少しない場合は、隙間 A を再確認した後、安全弁をもう少し緩めます。  
ただし、緩める量は、P.13 の表の回転数以内としてください。  
その後②と同様の作業を行ってください。
- ④ ここまでの作業で漏れが減少しない場合は、一度安全弁を連結弁に完全に戻します。  
但し、漏れが多い場合、安全弁の O-リングを挟み込んで切断する危険性がありますので、必ず交換治具を使用してください。
- ⑤ ③と④の作業を 2~3 回繰り返します。漏れが減少しない場合は、弊社営業担当までご連絡ください。



## 連結弁との隙間 A 及び安全弁と連結弁のねじのかみ合い山数 n

交換治具コード	適応連結弁	安全弁	ねじサイズ	①の作業		③の作業
				A	n (山数)	A からさらに緩めることができる 回転数
R680-G20 ※1	CNV-20	LPR-680 Φ11	G3/4	9	2.5	1 回転以内
		LPR-680 Φ14				
R680-G25 ※2	CNV-25	LPR-680 Φ17	G1	10.5	2.5	1 回転以内
		LPR-680 Φ21.2				
R680-G40	CNV-40	LPR-680 Φ22	G1-1/2	13.5	1.7	0.5 回転以内
R680-G20N	COM-50V	LPR-680 Φ11	G3/4	9	2.5	1 回転以内
		LPR-680 Φ14				
	COM-50F	LPR-680 Φ14				
	COM-50FN	LPR-680 Φ14				
R680-G25N	COM-50F	LPR-680 Φ17	G1	10.5	2.5	1 回転以内
	COM-50FN	LPR-680 Φ17				
	CMB-25S	LPR-680 Φ21.2				
	CMB-25T	LPR-680 Φ21.2				
	CNV-25F	LPR-680 Φ21.2				
R680-CMB32	CMB-32S	LPR-680M Φ22	G1-1/4	11.5	2.8	1 回転以内
	CMB-32T					

※1. CNV-20 に対しては R680-G20N も使用可能ですが、治具に爪がある R680-G20 の使用を推奨致します。

※2. CNV-25 に対しては R680-G25N も使用可能ですが、治具に爪がある R680-G25 の使用を推奨致します。



## 作業 3-2-④-ロ

ブローホール対応後(2004年1月1日以降製造)の安全弁を交換する際、安全弁と連結弁の接続部からのLPGの漏れが多い場合はP.26の「8.交換治具の使用方法」に進み適切な処理を行ってください。

## 検知液によるチェック



警告

連結弁と安全弁の接続部からの漏れが多いときは無理をせずに作業を中止してください。重大な事故につながる可能性があります。

作業 3-2-⑤ LPGの流出が無い事、または、カニ泡以下である事の確認が出来たら安全弁を連結弁から完全に外します。安全弁を取外すときに連結弁内部に傷を付けないように気を付けてください。

## 安全弁を外す



作業 3-2-⑥ 安全弁を外した後は連結弁内に異物が入らないように綺麗な布等を連結弁に被せてください。



禁止

- 安全弁を一気に緩めないでください。  
必ず LPG の漏洩が無い事、またはカニ泡以下の漏洩である事を確認してから安全弁を外してください。
- 安全弁を取外すときは微量の LPG が大気に放出されます。  
貯槽周辺では、火気を使用しないでください。  
LPG に引火し、重大な事故につながる可能性があります。



警告

- 万一連結弁と安全弁の接続部からの漏洩がカニ泡以上であった場合は、必ず交換作業を中止してください。  
重大な事故につながる可能性があります。
- P.8 の「2. 連結弁の確認」で(A)タイプの場合は、作業中に連結弁が緩まないように連結弁にスパナ掛けをして固定した状態で作業してください。  
万一連結弁が緩んだ場合は、作業を中止して連結弁を増し締め後、連結弁と貯槽の接続部からの漏れが無い事を確認した後で、作業を再開してください。





注意

- 安全弁を外すとき連結弁内部に傷を付けないように注意してください。ガス漏れを起こす原因となる可能性があります。
- 連結弁内部にゴミが入ると、ガス漏れの原因となる可能性があります。
- 貯槽によっては、本交換要領書の手順では安全弁の交換が出来ないものがあります。交換に不都合が生じた場合は、各貯槽メーカーにお問い合わせください。
- 検知液は、液面計ゲージ部にかからない様に注意してください。

### 3-3 ソケット・放出管の取外し

☆ ソケット及び、放出管が付いていない時は P.18 の「4. 連結弁の点検整備」に進む。

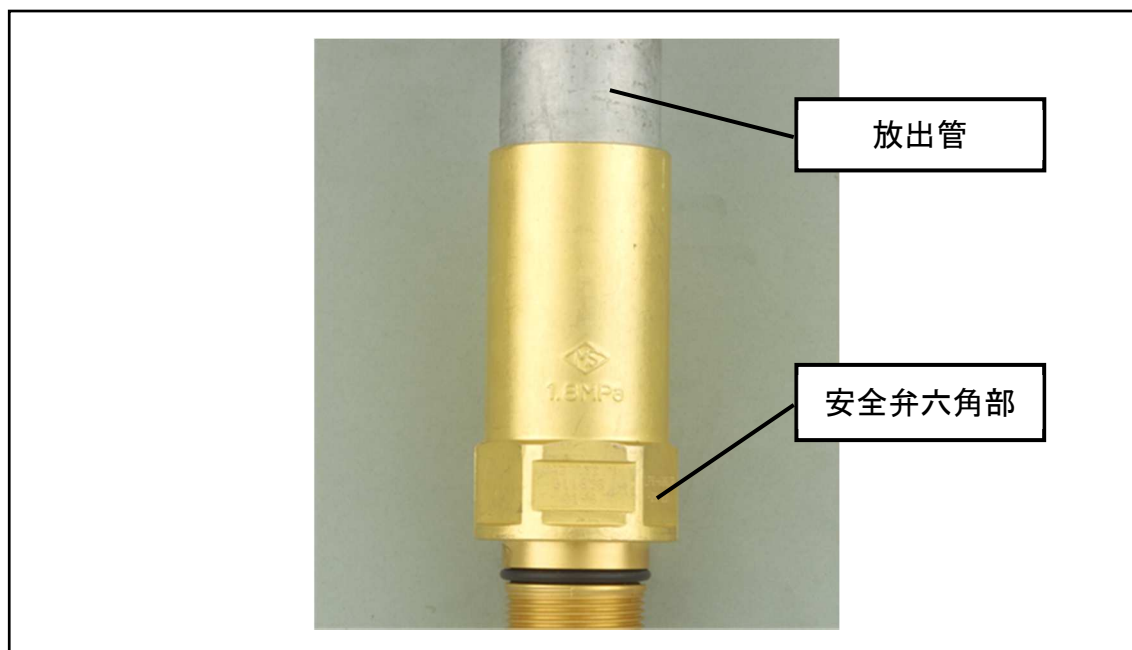
☆ 放出管が付いた状態では連結弁から安全弁の取外しが出来ない場合に限り、先に放出管を外します。但し P.8 の「2. 連結弁の確認」で(A)タイプの場合は、連結弁と貯槽の接続部が緩まないように安全弁の六角部をスパナで固定して作業してください。

☆ ソケットの有無により(イ)、(ロ)どちらか該当する方法で作業をしてください。

(イ) ソケット無の場合

作業 3-3-イ-① 安全弁の六角部にスパナを掛けて安全弁を固定した状態で放出管をパイプレンチ等で反時計回り(左回し)に回し放出管を緩めます。

作業 3-3-イ-② ある程度緩んだら放出管を手で回し安全弁より取外します。



## (ロ) ソケット付の場合

作業 3-3-ロ-① 安全弁の六角部に、スパナを掛けて安全弁を固定した状態でソケット六角部にスパナを掛け、反時計回り(左回し)に回し放出管ごと緩めます。

作業 3-3-ロ-② ある程度緩んだらソケット部を、手で回し安全弁より取外します。



警告

- 連結弁に安全弁が付いた状態で作業を行うときは必ず安全弁の六角部をスパナで固定した状態で作業してください。
- 連結弁に安全弁が付いた状態で作業するときは、P.8の「2.連結弁の確認」で(A)タイプの場合、作業中に連結弁が緩まないように安全弁をスパナ等で固定した状態で作業してください。  
万一連結弁が緩んだ場合は、作業を中止して連結弁を増し締め後、連結弁と貯槽の接続部からの漏洩が無い事を確認した後で作業を再開してください。



注意

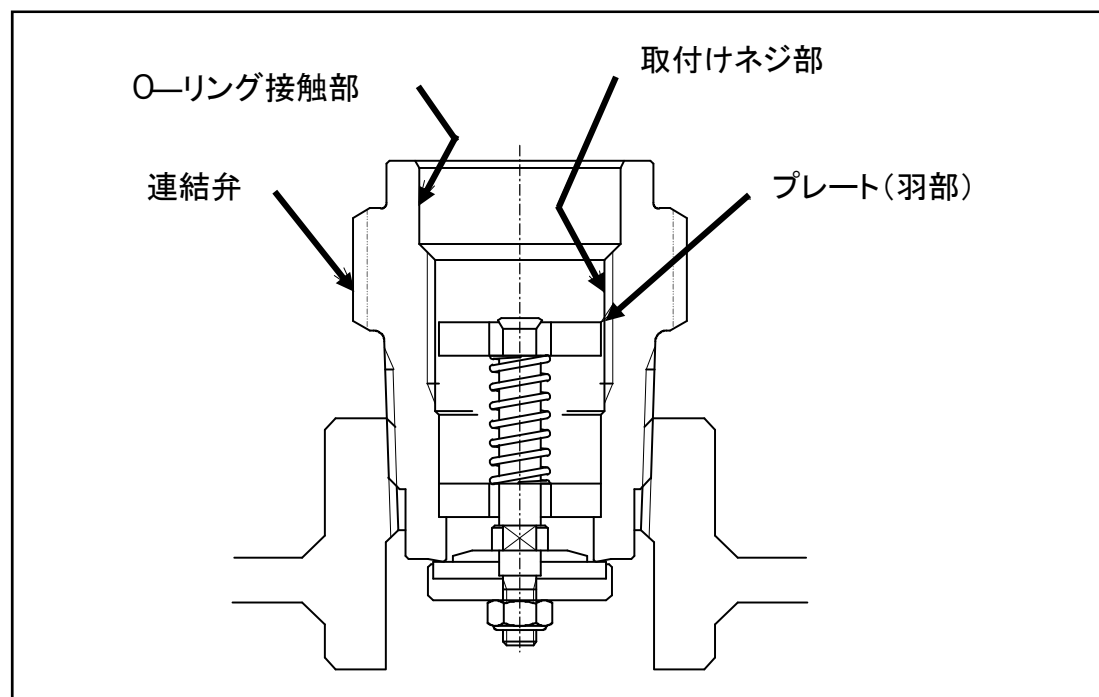
- 既設のソケット及び、放出管を再利用する場合は交換作業中の取扱(曲がり、ネジ部の傷)には注意をして作業を行ってください。
- 貯槽によっては、本交換要領書の手順では安全弁の交換が出来ないものがあります。  
交換に不都合が生じた場合は各貯槽メーカーに問い合わせください。
- 貯槽種類、貯槽メーカーによって安全弁と放出管の取付け方法が違います。  
各貯槽ごとに確認の上、作業を実施してください。

#### 4. 連結弁の点検・整備

- ☆ 安全弁を外した後に、連結弁内部の点検・整備を下記の手順で行ってください。  
作業中は連結弁内部にゴミの侵入や傷を付けないように注意してください。

作業 4-① 脱脂剤を塗布した綺麗な柔らかい布等で連結弁の O-リング接触部の古いグリスや汚れを拭き取ります。この時に連結弁内部に異物が無い事、取付けネジ部や O-リング接触部に傷や変形が無い事を確認してください。

作業 4-② O-リング接触部に、シリコンオイルを薄く全周に塗布してください。



禁止

- 連結弁の逆止弁が働いていても微量の LPG が漏洩する可能性があります。貯槽周辺では、火気を使用しないでください。LPG に引火し、重大な事故につながる可能性があります。
- 連結弁内部の逆止弁プレート(羽部)を押さないでください。逆止弁が開になり LPG が放出されます。



警告

安全弁取付け部のネジ変形や、O-リング接触部に有害な傷があると、安全弁の取付け不良や気密低下の原因となり、LPG が漏洩して重大な事故につながる可能性があります。



注意

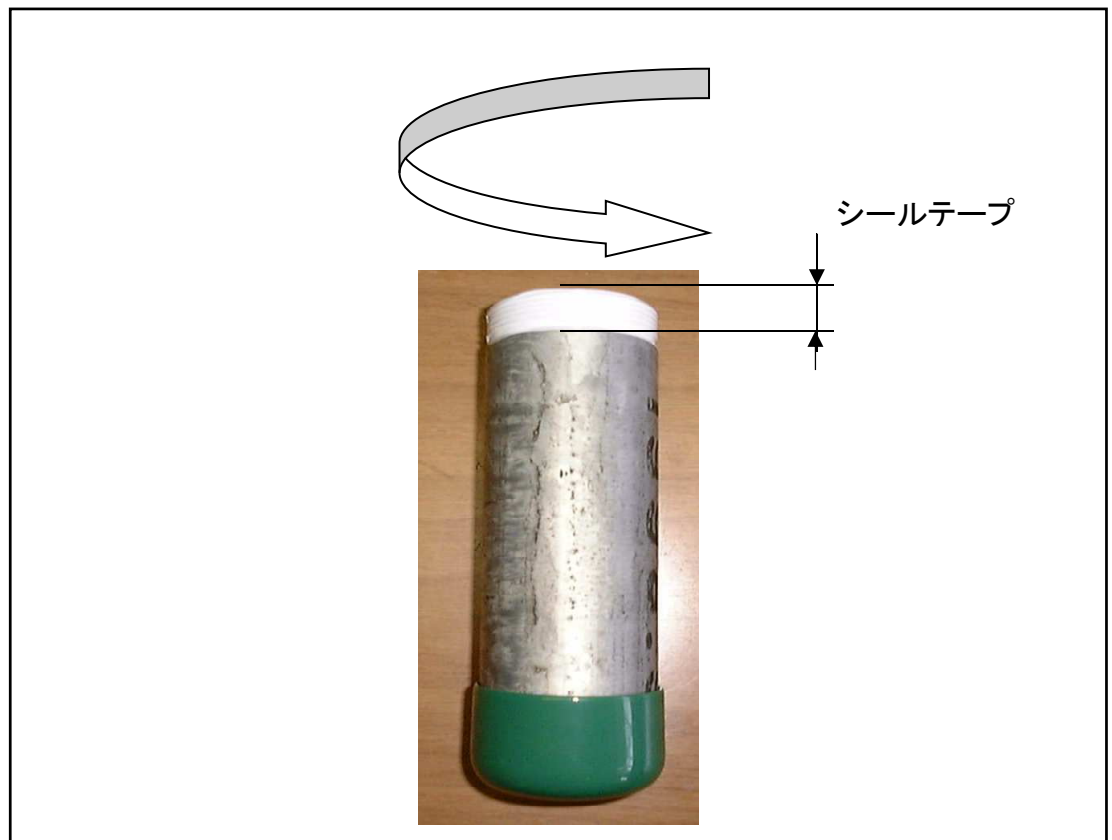
- 連結弁内部に異物が有った場合は取り除いてください。  
安全弁の作動不良の原因となる恐れがあります。
- 使用する布等は、毛羽立ちやホコリがでない物を使用してください。
- シリコンオイルは弊社指定品と同等のものを使用してください。

## 5. ソケット・放出管の点検・整備

- ☆ 既設のソケット及び、放出管を使用する場合には点検・整備を下記の手順で行ってください。  
作業中はソケット及び、放出管に異常が無い事を確認しながら作業してください。  
また、安全弁との接続ネジ部に傷を付けないように注意して作業してください。

作業 5-① 放出管に汚れや錆がある場合は、軽くワイヤブラシ等で除去してください。

作業 5-② 安全弁用・ソケット用共に放出管ネジ部には、必ずシールテープを下図の方向に  
2～2.5 巻き巻いてください。



作業 5-3 ソケット付きの場合は、安全弁にソケットを取付ける前に、放出管をソケットに取付けてください。

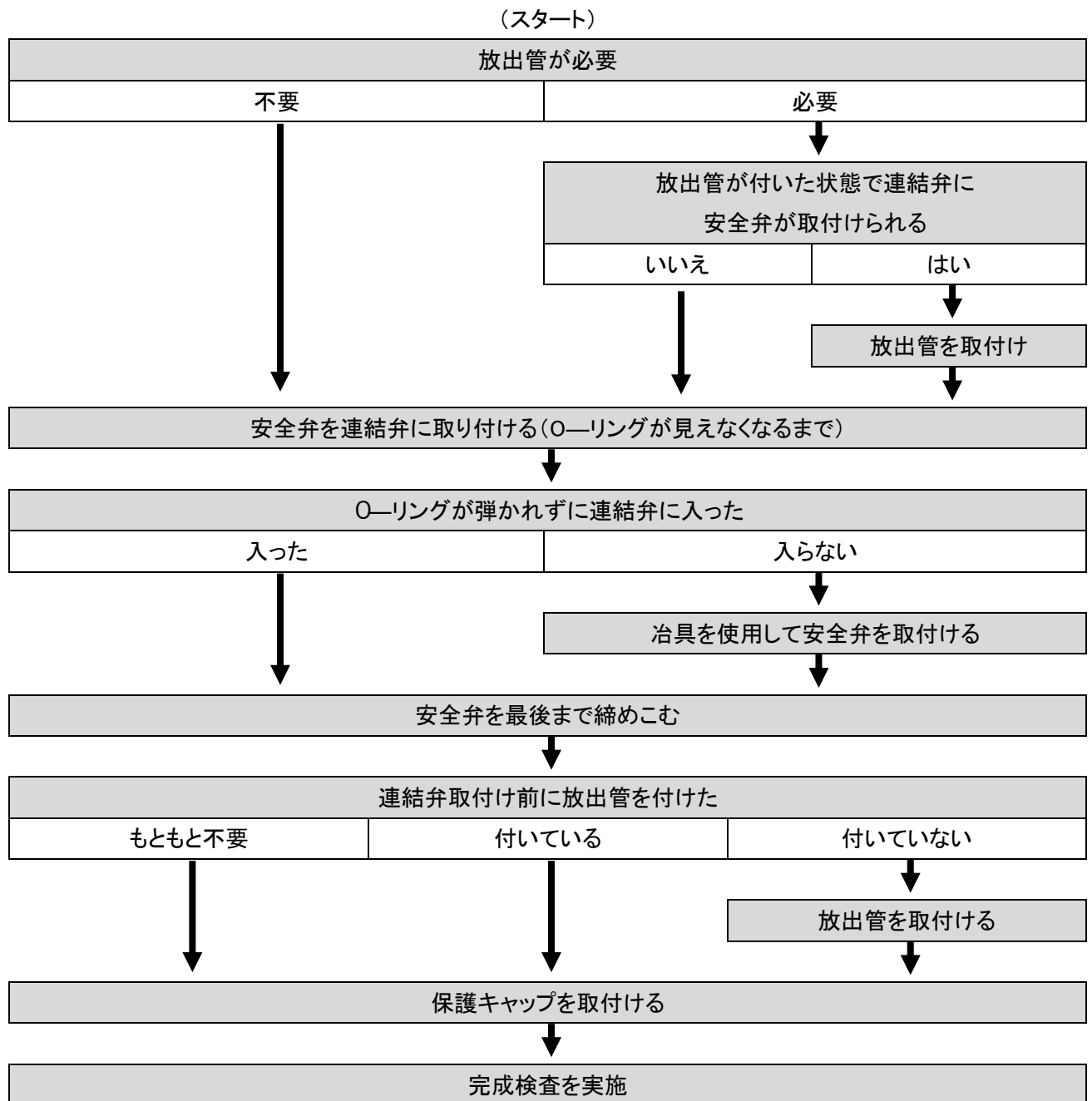


注意

- 既設のソケット及び、放出管を使用する時は、有害な変形・錆び、破損が無い事を確認してください。  
有害な変形・錆び、破損がある時は新品に交換してください。
- シールテープは必ず指定方向に巻いてください。反対に巻くと締め込み時に外れる場合があります。
- ソケットの安全弁接続ネジ部にはシールテープは巻かないでください。

6. 安全弁の取付け

6-1 安全弁取付けフロー



## 6-2 ソケット・放出管を取付ける

- ☆ 安全弁にソケット・放出管が付いた状態で連結弁に取付けが出来る場合は、先にソケット・放出管を安全弁に取付けます。
- ☆ 安全弁にソケット・放出管が付いた状態では連結弁に取付けが出来ない場合は、先に P.23 の「6-3 安全弁の取付け」に進み、その後に実施します。  
その際、安全弁と連結弁の接続部に過剰なトルクを掛けないよう、安全弁の六角部をスパナで固定して作業してください。
- ☆ ソケットの有無によって若干作業が異なります。(イ), (ロ)どちらか該当する方法で作業を行なってください。

## 作業 6-2-① 放出管を取付ける。

## (イ) ソケット無の場合

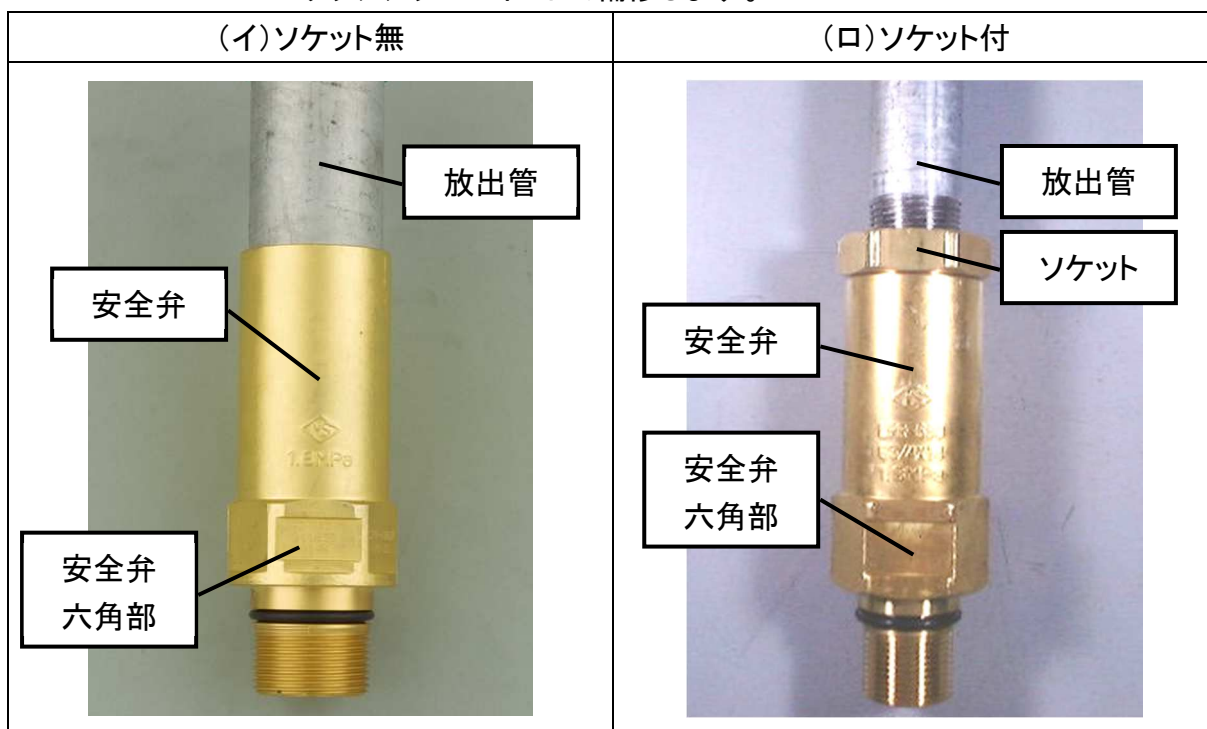
安全弁に放出管を手で時計回り(右回し)に締込み、最後にパイプレンチ等で軽く増し締めをします。増し締めをする時には必ず、安全弁の六角部をスパナで固定した状態で行ってください。

## (ロ) ソケット付の場合

安全弁に放出管が付いているソケットを手で時計回り(右回し)に締込み、最後にソケットの六角部をスパナ等で軽く増し締めをします。

増し締めをする時には必ず、安全弁の六角部をスパナで固定した状態で行ってください。

作業 6-2-② ワイヤブラシをかけたところやパイプレンチ等により傷がついた箇所をタッチアップペイントで補修します。



注意

放出管の増し締めはあまり強い力で締めこまないでください。



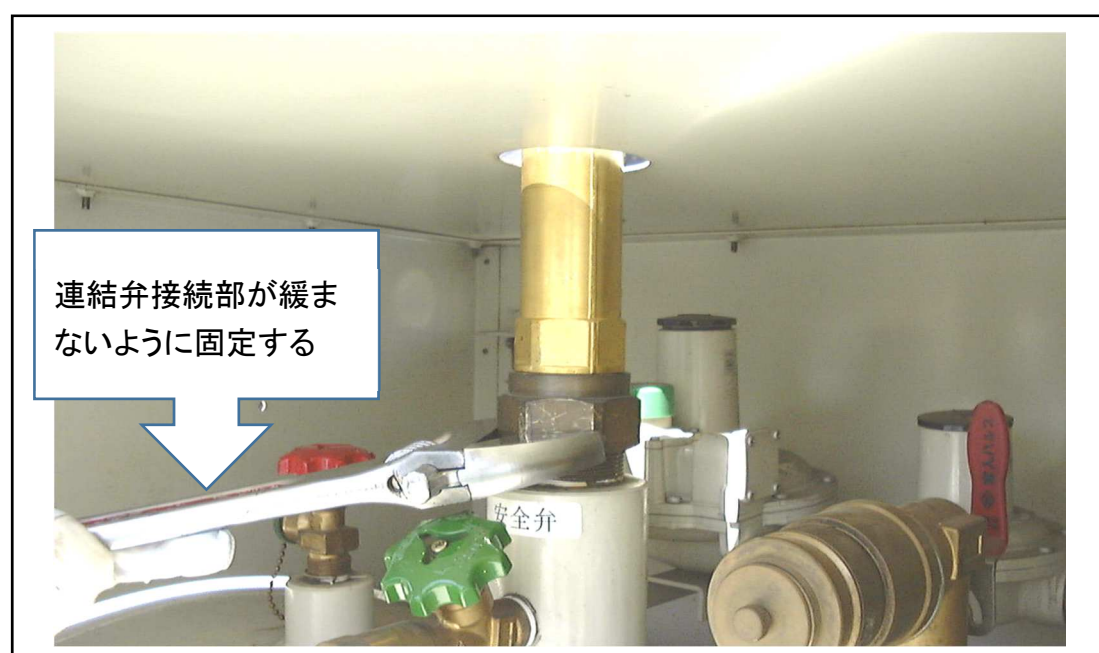
## 6-3 安全弁の取付け

- ☆ ここでは連結弁が P.8 の「2. 連結弁の確認」で(A)タイプ(CNV シリーズ)を例として説明します。連結弁へのスパナ掛け以外は(B)タイプも作業は変わりありません。

作業 6-3-① O-リングにシリコンオイルを薄く塗布した後、手で時計回り(右回り)に安全弁を連結弁に締め込みます。O-リングが連結弁で完全に見えなくなった所で連結弁が開となります。万一安全弁を締めこんだ時に O-リングが弾かれて連結弁に入らない場合は、無理をしないで P.26「8. 交換治具の使用方法」に進み適切な処理を行ってください。



作業 6-3-② そのまま安全弁を締め込み連結弁と安全弁の隙間が無くなったら、安全弁六角部にスパナを掛けて時計回り(右回り)に軽く増し締めしてください。増し締めを行うときは必ず連結弁をスパナで固定した状態で行ってください。(締付トルクは「資料 2」参考)





作業 6-3-③ 安全弁又は、放出管に新しい保護キャップを取付けます。



- ☆ 放出管を付ける前に安全弁を連結弁に取付けた場合は、P.22「6-2.ソケット・放出管を取付ける」に戻り放出管の取付けを行った後で保護キャップを取付けてください。
- ☆ 放出管を使用しない場合は、安全弁に直接保護キャップを取付けてください。



禁止

- O-リングにより気密が保持されるため安全弁ネジ部にシールテープ等他のシール剤は使用しないでください。ごみ噛み等により安全弁の故障の原因となります。
- 貯槽周辺では火気を使用しないでください。  
LPG に引火し重大な事故につながる恐れがあります。



警告

- 万一安全弁を締めこんだ時に O-リングが弾かれて連結弁に入らない場合は、無理をせず P.26「8. 交換冶具の使用方法」に従ってください。  
無理をすると、O-リングの切断や傷が付き連結弁との接続部からの、漏れの原因となり重大な事故につながる恐れがあります。
- 作業中は安全弁と連結弁の接続ネジ部及び、O-リングに傷等を付けないように注意してください。  
連結弁との接続部からの漏れの原因となり重大な事故につながる恐れがあります。
- 傷のついた O-リングを使用すると漏れの原因になります。  
重大な事故につながる恐れがあるので絶対に使用しないでください。  
交換が必要な場合は必ずメーカー純正部品の O-リングを使用してください。
- 交換用安全弁の取付けネジ部に有害な傷があった場合は、使用しないでください。  
取付け不良等により重大な事故につながる恐れがあります。



注意

- 交換用安全弁には出荷時に O-リングが取付けられています。  
交換前に O-リングが付いていることを確認してください。

## 7. 完了検査

☆ 以上の作業が終了したら、以下の部分の検査を実施してください。

- 7-1 貯槽と連結弁又は、マルチバルブの連結弁接続部からの漏れが無いことを検知液にて確認してください。
- 7-2 連結弁と安全弁接続部からの漏れが無いことを、検知液で確認してください。  
万一漏れがあった場合は以下の手順で対応してください。
- ① P.10 の「3-2 安全弁の取外し」の手順で安全弁を取外します。
  - ② O-リングに異物や傷が無い事を確認してください。  
※O-リングに異物や傷があった場合は、交換治具セットに付属してある交換用O-リングと交換してください。
  - ③ 連結弁の O-リング接触部に異物や傷が無いかを確認してください。  
※異物があった時は取り除いてください。  
傷があった場合は連結弁の交換作業が必要となります。別途相談してください。
  - ④ P.23「6-3 安全弁の取付け」の手順で安全弁を取付けます。
  - ⑤ 再度、連結弁と安全弁接続部からの漏れが無いことを検知液で確認してください。
- 7-3 樹脂製の保護キャップの場合、新品の保護キャップが付いている事を目視で確認してください。
- 7-4 ソケット・放出管付きの場合は取付けが完了されていることを目視で確認してください。

以上 4 点について必ず確認してください。

以上で安全弁の交換作業は終了です。プロテクター等貯槽を元の状態に戻してください。



注意

- 検知液は液面計ゲージ部にかからない様に注意してください。

## 8. 交換治具の使用法

- 交換治具セットは連結弁の種類、サイズ毎に異なります。  
連結弁の種類、サイズに合った治具を必ず使用してください。
  - 治具の種類は「資料 3 交換治具の種類」を参照
- ☆ 交換治具は以下のケースのときに使用します。

## ケース 1

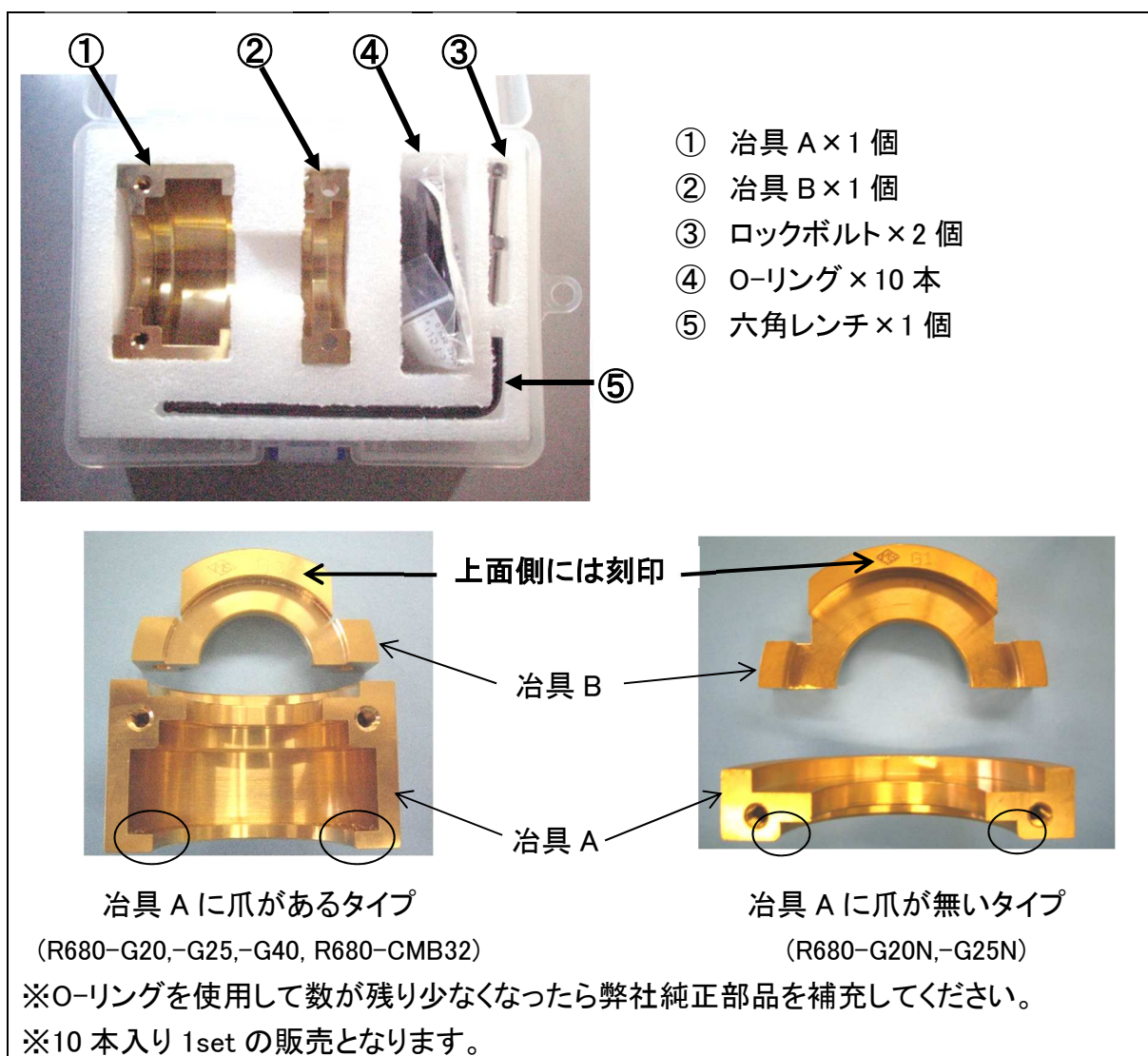
P.10 の「3-2 安全弁の取外し」で連結弁との接続部からの漏れがカニ泡以上であると判断し交換作業を中止したとき。

## ケース 2

P.23 の「6-3 安全弁の取付け」で交換用安全弁を連結弁に取付けようとしたときに、O-リングが上手く連結弁に入らないとき。

## 8-1 部品構成

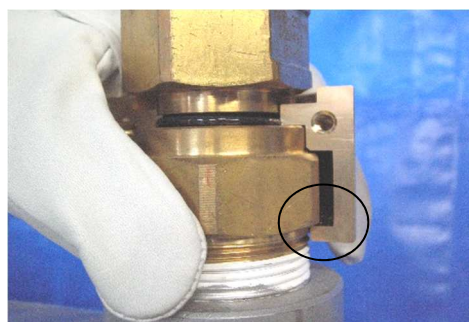
- ☆ 各サイズの交換治具セットの部品構成は下記の様になっています。



- ☆ CNV-40 用治具として、平 70 の「バルク貯槽用安全弁交換用スパナ」があります。  
必要な場合は問い合わせください。

## 8-2 作業手順

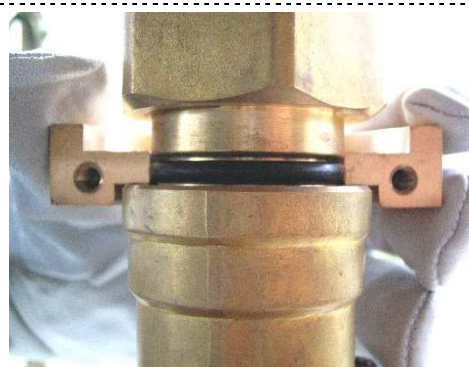
作業 8-2-① O-リングが連結弁から完全に見えた状態で治具 A を取り付けます。



爪があるタイプ

治具 A の爪を連結弁に引っ掛けるように取り付けます。

☆ O-リングに傷、ゴミが付かないよう注意してください。



爪が無いタイプ

治具 A を O-リング上に添えて取り付けます。

このとき治具 A を連結弁にしっかりと押し付け、隙間が無い様にします。

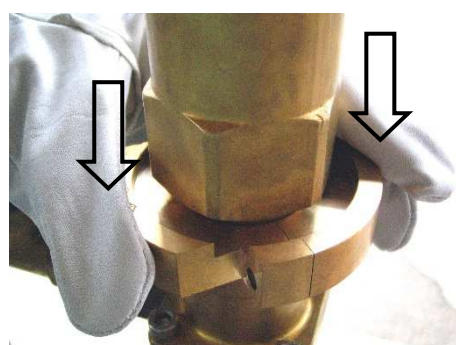
☆ O-リングに傷、ゴミが付かないよう注意してください。

作業 8-2-② 治具 B を治具 A に取付け、安全弁を挟み込みます。



爪があるタイプ

治具 B を治具 A に取り付けます。



爪が無いタイプ

治具が連結弁上面から離れないように上から下へ均等に押さえつけながら、治具 B を治具 A に取り付けます。

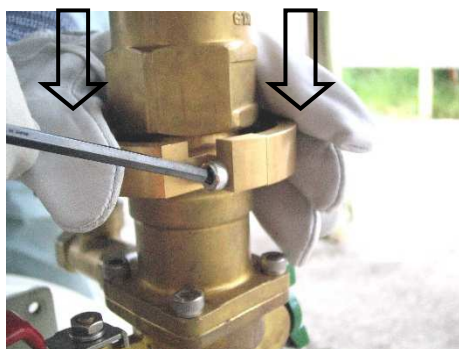


作業 8-2-③ 治具 A と治具 B をロックボルトで均等に締付け、固定します。



ロックボルトを締め付けます。

爪があるタイプ



治具が連結弁上面から離れないように上から下へ均等に押さえつけた状態でロックボルトを締め付けます。

☆ 押さえが不備な場合、Oリングがはみ出す恐れがあります。

爪が無いタイプ

作業 8-2-④ 安全弁を時計回り(右回り)に回し治具が安全弁で固定される状態まで締め込みます。

作業 8-2-⑤ 安全弁を反時計回り(左回り)に 1/4~1/2 回転緩めます。

作業 8-2-⑥ ロックボルトを取外し、治具 A と治具 B を連結弁から取外します。



Oリングが完全に連結弁に入っているかを全周確認してください。

- 作業 8-2-⑦ 治具を取外し後に P.23 の「6-3 安全弁の取付け」作業 6-3-②以降の要領で安全弁の取付けを完了させてください。
- 作業 8-2-⑧ ソケット・放出管の取付けが必要な場合は P.22「6-2 ソケット・放出管を取付ける」の要領で取付け作業を行ってください。
- 作業 8-2-⑨ プロテクター等を元に戻してください。

- ☆ ケース 1 の場合は安全弁の再検査又は、交換作業が終わっていません。  
貯槽のガス抜き作業を行って安全弁を交換してください。
- ☆ ケース 2 の場合は再検査済み又は交換用安全弁の取付け作業は終了です。



禁止

貯槽周辺では火気を使用しないでください。  
LPG に引火し重大な事故につながる可能性があります。



注意

傷のついた O-リングを使用すると漏れの原因になります。  
重大な事故につながる恐れがあるので絶対に使用しないでください。  
交換が必要な場合は必ずメーカー純正部品の O-リングを使用してください。



注意

- 治具取付け状態で安全弁を締め込むときは、必ず治具が一度固定されるまで締めこんでください。  
途中で治具を外すと連結弁から O-リングが弾かれる場合があります。
- 治具は各サイズ、連結弁の種類毎に専用となっています。  
必ず適応する治具を使用してください。
- O-リングはネジサイズごとに異なります。  
必ず専用の O-リングを使用してください。

## 9. 資料

## 9-1 資料 1 LPR-680 シリーズ 六角部寸法表

安全弁					安全弁元弁			
					CNV		マルチバルブ	
型式	口径	ネジサイズ	ボディ六角部	ソケット部	型式	六角部	型式	六角部
LPR-680	Φ22	G1-1/2	平 55	平 54	CNV-40	平 70		
LPR-680M	Φ22	G1-1/4	平 55					
LPR-680	Φ21.2	G1(PF1)	平 55	平 54	CNV-25	平 55		
LPR-680	Φ17	G1(PF1)	平 46	平 46	CNV-25	平 55	COM-50F	平 46
LPR-680	Φ14	G3/4(PF3/4)	平 41	平 41	CNV-20	平 46	COM-50F	平 46
LPR-680	Φ11	G3/4(PF3/4)	平 35					

## 9-2 資料 2 LPR-680 シリーズ 安全弁ねじ込みトルク(目安)

型式	口径	締付けトルク N・m/kgf-cm
LPR-680	Φ22	80~100/800~1000
LPR-680M	Φ21.2	80/800
LPR-680	Φ17	80/800
LPR-680	Φ14	50/500
LPR-680	Φ11	50/500

☆ 過剰に締め付けると、取り外しが困難となります。

取り外し可能なトルクで締め付けてください。

## 9-3 資料 3 交換治具一覧表

交換治具コード	適応連結弁	交換治具コード	適応連結弁
R680-G20 ※1	CNV-20	R680-G25N	COM-50F
R680-G25 ※2	CNV-25		COM-50FN
R680-G40	CNV-40		CMB-25S
R680-G20N	COM-50V		CMB-25T
	COM-50F	CNV-25F	
	COM-50FN	R680-CMB32	CMB-32S
			CMB-32T

※1. CNV-20 に対しては R680-G20N も使用可能ですが、治具に爪がある R680-G20 の使用を推奨致します。

※2. CNV-25 に対しては R680-G25N も使用可能ですが、治具に爪がある R680-G25 の使用を推奨致します。

## 9-4 交換用安全弁コード適合表

## 資料 4-1

2006/5/31 現在

既設安全弁 製品コード	呼び径	ねじ サイズ	交換用安全弁 製品コード	既設安全弁 製品コード	呼び径	ねじ サイズ	交換用安全弁 製品コード
LPR-680P-031	Φ11	G3/4	LPR680C-00-11	LPR680-02-21	Φ21.2	G1	LPR680C-00-21
LPR-680-032	Φ11	G3/4		LPR680-04-21	Φ21.2	G1	
LPR-680-04	Φ11	G3/4		LPR680-28-21	Φ21.2	G1	
LPR680-07-14	Φ14	G3/4	LPR680P-03-21	Φ21.2	G1		
LPR680-18-14	Φ14	G3/4	LPR680P-031-21	Φ21.2	G1		
LPR680-18-14-225C	Φ14	G3/4	LPR680P-032-21	Φ21.2	G1		
LPR680-18-14-252C	Φ14	G3/4	LPR680P-033-21	Φ21.2	G1		
LPR680-18-14-275C	Φ14	G3/4	LPR680P-034-21	Φ21.2	G1		
LPR680-23-14	Φ14	G3/4	LPR680P-121-21	Φ21.2	G1		
LPR680-30-14	Φ14	G3/4	LPR680P-123-21	Φ21.2	G1		
LPR680-45-14	Φ14	G3/4	LPR680P-124-21	Φ21.2	G1		
LPR680P-57-14	Φ14	G3/4	LPR680P-161-21	Φ21.2	G1		
LPR680-00-17	Φ17	G1	LPR680P-162-21	Φ21.2	G1		
LPR680-11-17	Φ17	G1	LPR680P-162-21#	Φ21.2	G1		
LPR680-29-17	Φ17	G1	LPR680P-371-21	Φ21.2	G1		
LPR680-39-17	Φ17	G1	LPR680S-01-21	Φ21.2	G1		
LPR680P-31-17	Φ17	G1	LPR680S-02-21	Φ21.2	G1		
LPR680P-45-17	Φ17	G1	LPR680S-05-21	Φ21.2	G1		
LPR680P-46-17	Φ17	G1	△ LPR680S-00-21	Φ21.2	G1	LPR680S-05-21	
LPR680P-591-17	Φ17	G1					
LPR680P-592-17	Φ17	G1					
LPR680P-593-17	Φ17	G1					
LPR680P-594-17	Φ17	G1					
LPR680P-595-17	Φ17	G1					

※ △印の付いている LPR680S-00-21 のみソケット付での販売となります。

※ 既設の安全弁が上記以外の場合は、弊社営業まで問い合わせください。

※ 交換用安全弁にはソケット・放出管・保護キャップは付属されません。  
別途手配が必要となります。



## 資料 4-2

2006/5/31 現在

既設安全弁 製品コード	呼び径	ねじ サイズ	交換用安全弁 製品コード	既設安全弁 製品コード	呼び径	ねじ サイズ	交換用安全弁 製品コード
LPR680-09-22	Φ22	G1-1/2	LPR680C-00-22	LPR680MP-561-22	Φ22	G1-1/4	LPR680MC-00-22
LPR680P-08-22	Φ22	G1-1/2		LPR680MP-562-22	Φ22	G1-1/4	
LPR680P-081-22	Φ22	G1-1/2		LPR680MP-563-22	Φ22	G1-1/4	
LPR680P-082-22	Φ22	G1-1/2		LPR680MP-564-22	Φ22	G1-1/4	
LPR680P-083-22	Φ22	G1-1/2		LPR680MP-565-22	Φ22	G1-1/4	
LPR680P-085-22	Φ22	G1-1/2		LPR680MP-566-22	Φ22	G1-1/4	
LPR680P-131-22	Φ22	G1-1/2					
LPR680P-132-22	Φ22	G1-1/2					
LPR680P-151-22	Φ22	G1-1/2					
LPR680P-152-22	Φ22	G1-1/2					
LPR680P-191-22	Φ22	G1-1/2					
LPR680P-221-22	Φ22	G1-1/2					
LPR680P-222-22	Φ22	G1-1/2					
LPR680P-25-22	Φ22	G1-1/2					
LPR680S-11-22	Φ22	G1-1/2					
LPR680S-14-22	Φ22	G1-1/2					

- ※ 既設の安全弁が上記以外の場合は、弊社営業まで問い合わせください。
- ※ 交換用安全弁にはソケット・放出管・保護キャップは付属されません。  
別途手配が必要となります。

## 10. 保証

## 10-1 保証期間

貴社での検収完了後 18 ヶ月内または設置後 12 ヶ月内のうち、いずれか早く到来する期間内において、製造上の問題に起因する故障が判明した場合には、無償修理もしくは交換を行います。

## 10-2 保証範囲

上記保証期間中、当社の責により故障を生じた場合に限り、本製品の故障部分の交換又は現品の修理を無償で行わせていただきます。

なお、交換にかかる諸費用(ガス抜き、残ガス処理等にかかる費用、ガスの供給停止等による補償等)については当社では負担できかねますので、あらかじめご了承ください。

但し、次に該当する場合はこの補償の対象範囲から除外させていただきます。

- ① 故障の原因が本製品以外の事由による場合。
- ② 当社以外の者による改造又は修理による場合。
- ③ 製品本来の使い方以外の使用による場合。
- ④ 取扱説明書、仕様書等で定めた諸条件の事項に反した場合。
- ⑤ その他、天災、災害など当社の責でない原因による場合。

本製品についてのご質問、及び定期点検のご相談、ご依頼は下記の営業所までご連絡ください。



<http://www.miyairi-valve.co.jp>

本 社	〒104-0061	東京都中央区銀座西 1-2	(TEL) 03-3535-5575	(Fax) 03-3567-6834
甲 府 工 場	〒400-0206	山梨県南アルプス市六科 1588	(TEL) 055-285-0111	(Fax) 055-285-7175
札幌営業所	(TEL) 011-786-1110	(Fax) 011-786-1120	大阪営業所	(TEL) 06-6541-8711 (Fax) 06-6541-8718
仙台営業所	(TEL) 022-295-4670	(Fax) 022-295-4671	広島出張所	(TEL) 082-426-5002 (Fax) 082-426-5003
東京営業所	(TEL) 03-3535-5571	(Fax) 03-3567-6834	九州営業所	(TEL) 093-921-0981 (Fax) 093-921-0984
名古屋営業	(TEL) 052-951-3860	(Fax) 052-951-3862		